

各関係機関団体の長
殿
各病虫害防除員

福岡県病虫害防除所長
(福岡県農林業総合試験場病虫害部予察課)

技術情報第1号

水稻の海外飛来性害虫の飛来状況、葉いもちの発生状況について

本年のセジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガの飛来状況等をお知らせします。

また、トビイロウンカについては、7月2半旬の現地ほ場における発生状況、ネットトラップ及び予察灯での捕獲数等に基づき発生予想パターン図を作成しましたので、併せてお知らせします。

なお、県内の中山間地の一部において、葉いもちの発生が多い地区があります。今後の気象条件次第ではこれらの地域では本病の増加が懸念されますので留意頂き、防除対策の参考資料として活用をお願いします。

1 作物名 普通期水稻

2 病虫害名 海外飛来性害虫（セジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガ）

3 発生状況

(1) 飛来状況

予察灯とネットトラップ（表1）から、本年は7月4日、7月13日を中心にまとまった飛来が確認されています。

(2) 7月2半旬のほ場調査結果

1) セジロウンカ

10株当たりの払い落とし成幼虫数は平均0.47頭（平年7.6頭、前年1.3頭）で、平年・前年より少なかった。

発生ほ場率は61.1%（平年72.6%、前年75.0%）で、平年・前年より低かった。

2) トビイロウンカ

10株当たりの払い落とし成幼虫数は平均0頭（平年0.09頭、前年0.15頭）で、平年・前年より少なかった。

発生ほ場率は0%（平年4.9%、前年14.0%）で、平年・前年より低かった。

3) コブノメイガ

食害株率は0%（平年0.31%、前年0.74%）で、平年・前年より少なかった。

30 m²当たり払い出し成虫数は0頭（平年 0.25 頭、前年 0.05 頭）で、平年・前年より少なかった。

4 防除上注意すべき事項

(1) セジロウンカのは場での発生量は平年より少ないものの、今後も飛来する恐れがあるので、防除所が発表する情報に注意して下さい。

＜要防除水準＞ 飛来成虫数6頭／1株

(2) トビイロウンカのは場での発生量は、平年・前年より少なく、発生ほ場率も平年・前年より低い状況です。

ただし、トビイロウンカは田植え時期や、地域及びほ場毎の発生の差が大きく、育苗箱施薬剤が施用されたほ場でも、移植後1か月以上経過すると農薬の効果の低下に伴い増殖しやすくなるので、発生予想パターン図（図1）を参考に、ほ場における発生状況を把握し、発生が多い場合は幼虫期に防除を行って下さい。

＜要防除水準：中老齢幼虫の合計数＞

飛来後第1世代： 20頭／100株（7月中～下旬頃）

飛来後第2世代： 100頭／100株（8月中～下旬頃）

飛来後第3世代：1,000頭／100株（9月中～下旬頃）

(3) コブノメイガのは場での発生量もセジロウンカと同様に、平年より少ないものの、今後も飛来する恐れがあるので、防除所が発表する情報に注意して下さい。

(4) 無人ヘリコプターによる防除を、気温が高い時間帯に実施すると、薬剤の種類によってはイネの株元に到達する前に気化し、防除効果が著しく低下する場合がありますので、気温が高くなる前の早朝に実施して下さい。

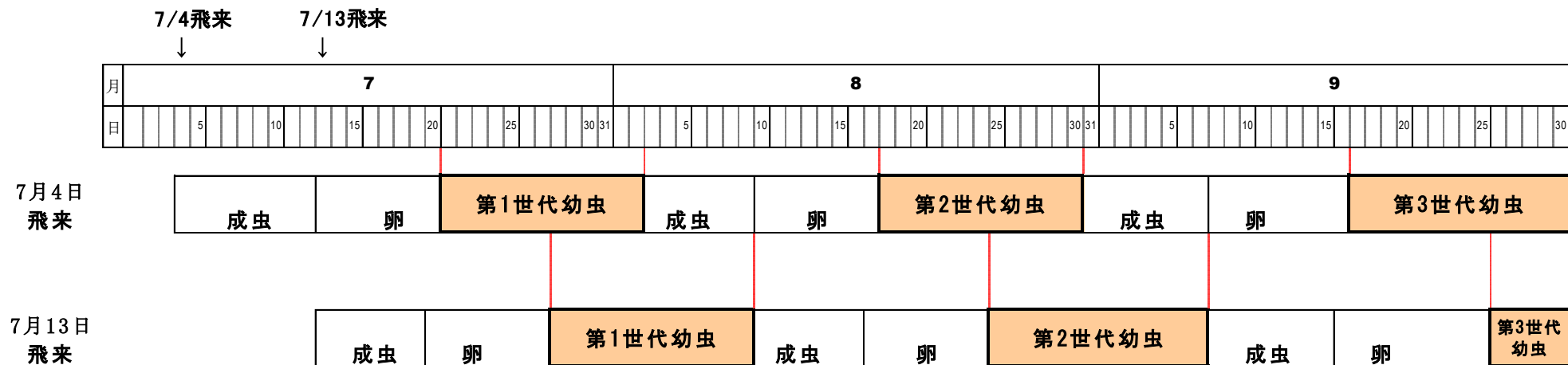
(5) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を順守して下さい。

(6) 今後の発生状況については、防除所ホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/fukuoka/>) を参照して下さい。

表1 ネットトラップと予察灯における誘殺状況

月日	セジロウンカ							トビイロウンカ							コブノメイガ									
	予察灯							予察灯							予察灯									
	ネットトラップ	筑紫野市	筑紫野市	糸島市	筑後市	行橋市	遠賀町	予察灯計	ネットトラップ	筑紫野市	筑紫野市	糸島市	筑後市	行橋市	遠賀町	予察灯計	ネットトラップ	筑紫野市	筑紫野市	糸島市	筑後市	行橋市	遠賀町	予察灯計
6/20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/21	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/27	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/28	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/4	0	1	10	0	0	0	1	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/5	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/6	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/10	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/11	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/13	1	3	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/14	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/15	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

図1 飛来に基づくトビイロウンカの発生予想パターン図（平成26年7月16日作成）



(注) (1) JPP-NETの有効積算温度計算シミュレーションを用いて算出。発育零点12.0℃、発育上限温度28.5℃、発育停止温度33.0℃、有効積算温度(成虫期間100.0℃、卵期間109.4℃、幼虫期間189.4℃)

(2) 気温はアメダス太宰府を使用。

1 作物名 早期～早植えの水稻

2 病害虫名 葉いもち

3 発生地域 中山間地

4 発生状況

(1) 7月2半旬調査の結果、発生量は平年より少なかったが、発生ほ場率は平年より高かった。

発生株率 0.16% (平年 0.49% 前年 0.13%)

発生ほ場率 8.0% (平年 3.0% 前年 2.4%)

(2) 福岡管区気象台が7月17日に発表した九州北部地方の1ヶ月予報によると、気温、降水量、日照時間ともに平年並、となっているものの、これまで本病発生の好条件が続いた地域では、今後の発生の増加に注意する。

5 防除上注意すべき事項

(1) ほ場によって、発生状況が大きく異なるため、本田での状況をよく把握して、発生状況を確認する。出穂期に葉いもちの病斑があると穂いもちの発生源となるので、注意が必要である。

(2) いもち病の発生が多い地域では、出穂期直前と穂揃期の2回防除を行う。気温が25℃前後と低く、葉の湿潤状態が継続する場合は防除回数を増加する。降雨が続き、地上散布が困難な場合は早めに粒剤の施用を行う。

(3) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を順守する。

(4) 今後の発生状況については、防除所ホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>) を参照する。